

伊丹福音ルーテル教会 四旬節第五主日礼拝のしおり

2023 年 3 月 26 日

前奏

招きのことば：詩編 130 編 1-5 節

【都に上る歌】深い淵の底から、主よ、あなたを呼びます。

主よ、この声を聞き取ってください。嘆き祈るわたしの声に耳を傾けてください。

主よ、あなたが罪をすべて心に留められるなら 主よ、誰が耐ええましょう。

しかし、赦しはあなたのもとにあり 人はあなたを畏れ敬うのです。

わたしは主に望みをおき わたしの魂は望みをおき 御言葉を待ち望みます。

罪の悔い改めと赦しのことば

会衆： 私たちは生まれつき、自分中心、わがままで、心の中に本当の愛のかけらもありません。思いとことばと行いで、まことの神を軽んじて、となりびとにも愛のない、神の御前に罪人です。神様、ほんとうにごめんなさい。

私たちは祈ります。私たちを救うため あなたがお与えくださった イエス・キリストによって、どうかあわれんでください。アーメン。（短い黙祷を持ちましょう）

牧師： 何でもおできになる神様は、あなたのすべての罪を赦すために、そのひとり子、イエス・キリストを十字架の上で死に渡してくださいました。ですから神様の御言葉をとりつぐ務めに任じられた牧師として、今、あなたがたに宣言します。父と、御子と、聖霊のお名前によって、あなたの罪は赦されました。安心して行きなさい。**アーメン。**

使徒信条

われは、天地のつくり主、父なる全能の神を信ず。

われは、そのひとり子、われらの主、イエス・キリストを信ず。

主は聖霊によりて宿り、おとめマリヤより生まれ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、十字架につけられ、死して葬られ、

陰府(よみ)にくだり、三日目によみがえり、天にのぼり、父なる全能の神の右に座したまえり。生ける人と死にたる人とを審かんがため、かしこより再びきたりたまわん。

我は聖霊を信ず、また、聖なるキリスト教会、すなわち聖徒の交わり、罪のゆるし、からだのよみがえり、限りなきいのちを信ず。 アーメン。

祈り

愛とあわれみに満ちておられる 私たちの父なる神様、心から感謝をいたします。今朝も共に礼拝にあずかり、罪の赦しをいただき、新しい命をいただいて 一週間を始めます。

私たちは神様からイエス様による罪の赦しにあずかり、新しい命をいただきます。私たちの罪深いわがままな心や、人びとの罪深いわがままな心がすべての問題をつくっています。そして神様から心が離れているために私たちは自分の力でわがままな心を直すことができません。そんな絶望的な現実をイエス様がかえてくださいます。イエス様は神様であるのに人となって罪はおかされませんでした。が私たちと同じ悩みや苦しみを担ってくださいました。さらに罪深いわがままな私たちが受けるべき神様から見捨てられる永遠の死と滅びの裁きを十字架の上で私たちのかわりに正しく受けてくださいました。イエス様がわたしのために死んでくださったのです。そして罪を赦して私たちを神様の子どもとしてくださり、そのよみがえりの命にあずかって永遠に生きるものとしてくださいます。イエス様は私のためだけでなく世界の人のためにも死んでよみがえってくださいました。私たちは、まだそのことを知らないで、また信じないでいらっしゃる方々の間で日々生活しています。私たちの大切な方々がイエス様から罪の赦しと永遠の命をいただいて、いっしょに人生とお互いを大切にする新しい希望に生きようになることを祈ります。私たちの教会が、イエス様の福音の説教と洗礼と聖餐によって赦された確信を持ち、イエス様が私たちのために死んでくださったことをいっきと証する教会として、引き続き育てられていくようにお祈りします。

新型コロナ・ウィルスの感染拡大を防ぐため、緊張感を保たなければなりません。その中でも全て御手にゆだね安心して、あなたの子どものように 生き生きと生きる日々をお与えください。この祈りを、私たちの救い主であり 主である イエス・キリストのお名前によってお祈りいたします。 **アーメン**

使徒書朗読：ローマの信徒への手紙 8 章 6-11 節

肉の思いは死であり、霊の思いは命と平和であります。なぜなら、肉の思いに従う者は、神に敵対しており、神の律法に従っていないからです。従えないのです。肉の支配下にある者は、神に喜ばれるはずがありません。神の霊があなたがたの内に宿っているかぎり、あなたがたは、肉ではなく霊の支配下にいます。キリストの霊を持たない者は、キリストに属していません。キリストがあなたがたの内にいらっしゃるならば、体は罪によって死んでいても、“霊”は義によって命となっています。もし、イエスを死者の中から復活させた方の霊が、あなたがたの内に宿っているなら、キリストを死者の中から復活させた方は、あなたがたの内に宿っているその霊によって、あなたがたの死ぬはずの体をも生かしてくださるでしょう。

福音書朗読：ヨハネによる福音書 11 章 1-45 節

ある病人がいた。マリアとその姉妹マルタの村、ベタニアの出身で、ラザロといった。このマリアは主に香油を塗り、髪の毛で主の足をぬぐった女である。その兄弟ラザロが病気であった。

姉妹たちはイエスのもとに人をやって、「主よ、あなたの愛しておられる者が病気なのです」と言わせた。イエスは、それを聞いて言われた。「この病気は死で終わるものではない。神の栄光のためである。神の子がそれによって栄光を受けるのである。」イエスは、マルタとその姉妹とラザロを愛しておられた。ラザロが病気だと聞いてからも、なお二日間同じ所に滞在された。

それから、弟子たちに言われた。「もう一度、ユダヤに行こう。」弟子たちは言った。「ラビ、ユダヤ人たちがついこの間もあなたを石で打ち殺そうとしたのに、またそこへ行かれるのですか。」イエスはお答えになった。「昼間は十二時間あるではないか。昼のうちに歩けば、つまりくことはない。この世の光を見ているからだ。しかし、夜歩けば、つまりく。その人の内に光がないからである。」こうお話しになり、また、その後で言われた。「わたしたちの友ラザロが眠っている。しかし、わたしは彼を起こしに行く。」弟子たちは、「主よ、眠っているのであれば、助かるでしょう」と言った。イエスはラザロの死について話されたのだが、弟子たちは、ただ眠りについて話されたものと思ったのである。そこでイエスは、はっきりと言われた。「ラザロは死んだのだ。わたしがその場に居合わせなかったのは、あなたがたにとってよかった。あなたがたが信じるようになるためである。さあ、彼のところへ行こう。」すると、ディディモと呼ばれるトマスが、仲間の弟子たちに、「わたしたちも行つて、一緒に死のうではないか」と言った。

さて、イエスが行って御覧になると、ラザロは墓に葬られて既に四日もたっていた。ベタニヤはエルサレムに近く、十五スタディオンほどのところにあった。マルタとマリアのところには、多くのユダヤ人が、兄弟ラザロのことで慰めに来ていた。マルタは、イエスが来られたと聞いて、迎えに行ったが、マリアは家の中に座っていた。マルタはイエスに言った。「主よ、もしここにいてくださいましたら、わたしの兄弟は死ななかつたでしょうに。しかし、あなたが神にお願いになることは何でも神はかなえてくださると、わたしは今でも承知しています。」イエスが、「あなたの兄弟は復活する」と言われると、マルタは、「終わりの日の復活の時に復活することは存じております」と言った。イエスは言われた。「わたしは復活であり、命である。わたしを信じる者は、死んでも生きる。生きていてわたしを信じる者はだれも、決して死ぬことはない。このことを信じるか。」マルタは言った。「はい、主よ、あなたが世に来られるはずの神の子、メシアであるとわたしは信じております。」マルタは、こう言ってから、家に帰って姉妹のマリアを呼び、「先生がいらして、あなたをお呼びです」と耳打ちした。マリアはこれを聞くと、すぐに立ち上がり、イエスのもとに行った。

イエスはまだ村には入らず、マルタが出迎えた場所におられた。家の中でマリアと一緒にいて、慰めていたユダヤ人たちは、彼女が急に立ち上がって出て行くのを見て、墓に泣きに行くのだろうと思い、後を追った。マリアはイエスのおられる所に来て、イエスを見るなり足もとにひれ伏し、「主よ、もしここにいてくださいましたら、わたしの兄弟は死ななかつたでしょうに」と言った。イエスは、彼女が泣き、一緒に来たユダヤ人たちも泣いているのを見て、心に憤りを覚え、興奮して、言われた。「どこに葬ったのか。」彼らは、「主よ、来て、御覧ください」と

言った。イエスは涙を流された。ユダヤ人たちは、「御覧なさい、どんなにラザロを愛しておられたことか」と言った。しかし、中には、「盲人の目を開けたこの人も、ラザロが死なないようにはできなかったのか」と言う者もいた。イエスは、再び心に憤りを覚えて、墓に来られた。墓は洞穴で、石でふさがれていた。イエスが、「その石を取りのけなさい」と言われると、死んだラザロの姉妹マルタが、「主よ、四日もたっていますから、もうにおいます」と言った。イエスは、「もし信じるなら、神の栄光が見られると、言っておいたではないか」と言われた。人々が石を取りのけると、イエスは天を仰いで言われた。「父よ、わたしの願いを聞き入れてくださって感謝します。わたしの願いをいつも聞いてくださることを、わたしは知っています。しかし、わたしがこう言うのは、周りにいる群衆のためです。あなたがわたしをお遣わしになったことを、彼らに信じさせるためです。」こう言ってから、「ラザロ、出て来なさい」と大声で叫ばれた。すると、死んでいた人が、手と足を布で巻かれたまま出て来た。顔は覆いで包まれていた。イエスは人々に、「ほどいてやって、行かせなさい」と言われた。マリアのところに来て、イエスのなさったことを目撃したユダヤ人の多くは、イエスを信じた。

讃美歌 529 番

- 1 ああうれし、我が身も 主のものとなりけり 浮世だに さながら 天(あま)つ世の心地す
※歌わでやあるべき 救われし身の幸(さち) たたえでやあるべき 御救いのかしこさ
- 2 残りなく御旨(みむね)に 任せたる心に えも言えず妙なる 幻を見るかな ※
- 3 胸の波 おさまり 心 いと静けし 我もなく 世もなく ただ主のみ いませり ※ **アーメン**

説教：「イエスは涙を流された」

私たちの父なる神様と御子イエス・キリストから、恵みと平安が豊かにありますように祈りつつ、御言葉をとりつぎます。

イエス様は「わたしは復活であり、いのちである。わたしを信じる者は死んでも生きる」と言われました。イエス様はほんとうに救い主なのでしょうか。そう信じない人はイエス様を民をまどわして神様を冒瀆する人だと断定して、イエス様を殺そうとしていました。

たしかにイエス様は人とは思えない知恵深い人を生かす言葉を語りました。ユダヤ人のニコデモも、サマリヤ人の女性も、イエス様とお話したことで新しい人生に変えられました。また、イエス様はたくさんのみわざをなさいました。結婚式で水を葡萄酒に変えたり、王様の役人の息子の病気をひとことでお癒しになったり、38 年間寝たきりだった病気の方をお癒しになったり、お話を聞きに来ていた 5000 人の人びとに 5 つのパンと二匹の魚をもって満腹にさせたりして、人びとはイエス様を自分たちの王様にしたいと思うほどでした。イエス様に目が見えるように癒していただいた人は、この方こそ救い主だ、と信じました。けれどもユダヤ人たちはイエス様を救い主だとは認めないで、ことあるごとに対立しました。

イエス様は「わたしはよい羊飼いです、良い羊飼いは羊のために命を捨てます、わたしの羊はわたしの声を聴き分けて従います、わたしは自分から命を捨て、そして命を再び受けます」と語っておられました。ユダヤ人たちは自分で神の子であると言っておられるそのイエス様は神を冒瀆する不遜な者だと考えました。人間なのに自分を神とするものは石打ちの刑にあたいします。人々はイエス様をとらえようとしたのですが、イエス様は彼らの手を逃れました。

イエス様がご自分が神様から遣わされたメシア、救い主、キリストであることとその意味をはっきりとお教えになるために、人びとがはっきりと信じることができるために、イエス様は大切にしておられた友人のラザロを死からよみがえらせてくださったのです。

決定的なこのイエス様のみわざによって、ユダヤ人の多くがイエス様を救い主として信じました。あわてたファリサイ派の人びとたちは、ついに最高議会を招集して急いで相談をしました。そしてイエス様を殺すことを決議しました。ほとんどの人がイエス様こそ来るべき方、メシア、救い主だと信じてしまった今、このままでは国が滅びてしまう、イエス様は国家の敵だ、と考えたのです。なぜなら、みんながイエス様を救い主と信じてしまったのでローマ帝国の皇帝はユダヤの地方でイエス様を中心とした大きな反乱がおこると考えるに違いなく、そうするとローマは大軍を派兵して、エルサレムの神殿もユダヤの人びともひとたまりもなく滅ぼされてしまうだろう、と考えたからです。ここまで先を読んで真剣な殺害計画を議会在が決議しました。

イエス様はほんとうのメシア、救い主です。しかしここで「救い主」ということをみんな誤解していたことに注目しましょう。とくにふたつの誤解がありました。ひとつはラザロの姉妹たちの誤解です。マルタもマリヤもイエス様が神の子、救い主であることは信じていました。しかしふたりとも「イエス様、もしあなたがここにいてくださいましたならラザロは死ななかつたでしょうに」と言いました。それはイエス様が救い主だとは言え、ラザロが死ぬまでに間に合うように来ることができなかったのだからもうラザロはどうしようもない、イエス様はもう何もできない、もう諦めるしかない、とふたりは普通に考えていました。

私たちも自分で救い主ならこんなことをしてくださると思い込んで、イエス様を救い主です、と告白しながらもイエス様の本当の救いを悟っていないことがあります。イエス様はその不信仰のために涙を流されました。また憤りを感じておられます。イエス様は永遠の命を私たちに与えてくださる救い主です。究極的な悲しみや絶望の涙をぬぐってください、私たちに死んでも生きる永遠の命を与えてくださいます。イエス様はこの世の目先の幸せを私たちにもたらすためだけではなく、それよりももっと大きくて、世の幸せはその大きな幸せのほんの予兆にすぎないという、永遠の幸せをもたらすために来てくださっています。私たちは自分の姿に気づいているでしょうか。マルタとマリヤのように、イエス様、あなたは救い主だとは知っています、けれどもわたしは今絶望しています、と誤解している自分の姿に気づいているでしょうか。ほんとうに救い主を必要としているときに、そこにイエス様がいてくださるのに、絶望し泣いてしまっている姿です。イエス様を自分の定義する救い主の理解に閉じ込めて、イエス様が罪の赦しと永遠の命を与えてくださっている救い主だと思っていないことです。

イエス様は人々の絶望が横穴式のラザロの墓の入り口が大きな石で塞がれているのを見ました。イエス様はその不信仰と誤解のかたまりである石を取り除けなさいとお命じになりました。ラザロは死んでもう四日もたっています！とマルタが抵抗しました。イエス様は「信じるなら神の栄光が見られると言ったではないか」とおっしゃって、人びとが石を取りのけると、ここにいる群衆が信じることができるために、と祈られて、ラザロよ、出てきなさい、と大声で叫ばれました。ラザロは生き返って墓から出てきました。

イエス様はラザロが病気だと聞いたとき、「この病気は死で終わるものではない、神の栄光のためである。神の子が、すなわちイエス様が、それによって栄光を受けるのである」とお語りになり、ラザロとその姉妹たちを大切に思っていたのに急いで彼らのもとへいくのをお控えになり、なお二日間、同じところに滞在された、と記されています。ラザロが病いに倒れ、ついに死んでしまう最悪の悲しい出来事を通して、イエス様は弟子たちの信仰も、マルタとマリヤの信仰も、さらにはユダヤ人たちすべての信仰も、より純粋な信仰に精錬してくださったのです。イエス様がいろんなことに忙しくて遅れてしまったのではありません。むしろ罪の結果である死の力や人々の絶望が最大になったとき、ラザロをよみがえらせて、予想できなかった圧倒的な死への勝利というイエス様の栄光をみんなが見ることができるように、すなわち、救い主は永遠の命を与えるお方であることを信じることができるように、イエス様は忍耐をもって「とき」をお待ちになったのです。すべてのことは偶然に起こるのではなく、悪いことと思うことさえもイエス様の御手の中で私たちの信仰をつくり強めるために用いられます。イエス様は私たちをもイエス様を神の御子、本当の救い主と信じて、永遠の命をもつように導いてくださいます。

もうひとつの誤解はファリサイ派の人や最高議会の決定に加わった人々の誤解です。彼らはメシア、救い主というと、かつての偉大なダビデ王のように、周辺の国々を滅ぼして強い王国を打ち立てて君臨するユダヤ人の王様だと定義していました。これが誤解でした。だからこそ彼らは救い主を待ち望んでいたのにほんとうの救い主であるイエス様を受け入れませんでした。イエス様はご自分を神様から遣わされ神様とひとつである救い主であると明言しながら、この世の王国を打ち立てることは何も言わず、むしろ良い羊飼いでして羊のために命を捨てるとか、永遠の命を与えるとかがあっており、全く話しがあいしません。それで彼らは、自分たちの考えている救い主ではないイエス様が人々に信頼されてしまうと、本当の救い主が来る前に当時の支配者であったローマ軍に生意気で危険な民だとして皆殺しにされてしまう、と恐れたのでした。

惑わす者から何としても民を守らなければならない、そのためにはイエス様を殺さなければならない、という使命感はとても感じますが、誤解に基づく熱意でした。神様は逆説的ですが、このようにイエス様を殺そうとする民の指導者、そして民のたくらみをお用いになって、イエス様を殺したその民の罪のために死んで下さり、その罪が裁かれて民の罪が赦されるようにしてくださいました。的外れな情熱によってイエス様は十字架につけられました。民を守ろうとするためにはこの方法しかない、と総力をあげて大祭司たちは総督をも説得をしました。民は

イエスを十字架につけると大合唱しました。最後に祭司長は自分たちを支配し恐れていた「ローマの皇帝のほかには私たちの王はいません、イエスは王でも神でもありません」とまで言い切りました。ローマ皇帝に仕えてユダヤ地方を総督として任されていたピラトはイエス様を十字架に引き渡しました。

イエス様はあなたの救い主です。あなたの罪を赦し、あなたを今から永遠の命に生きるようにしてくださいます。あなたの誤解がイエス様を十字架につけます。しかしそのためにイエス様は自らその不信仰の罪を担って喜んであなたのために命を与えてくださいます。それはあなたがイエス様を神の子、救い主と信じて永遠の命を得るためです。イエス様はよい羊飼いとて私たち羊のために命を与えてくださいます。それは羊が命を得、それも豊かに得るためです。

イエス様は十字架で死なれたあと、お約束なされた通り三日目によみがえってくださいました。そしてまだ完全に信じるのでできなかった弟子たちに現れてくださいました。ラザロはイエス様によってよみがえらされましたが、また老年になって死んだことでしょう。しかしイエス様は私たちにご自身と同じよみがえりの命を与えるために、よみがえってくださいました。ですから生きていてイエス様を信じる者はだれも決して死ぬことはないのです。

私たちはイエス様を救い主と信じて洗礼を受けます。洗礼によってイエス様とひとつとされて、聖餐によってイエス様の赦しと命をいつも新たにしていいただきながら、世にあっては永遠につながるいきいきした命を燃やして、隣人を愛していきます。イエス様は私たちに生きがいを与えてくださいます。生きていてよかったと感動を与えてくださいます。人は生きて死んだらそれでおわりだ、とどこかで思っている私たちに、今からつながる永遠の命を与えてくださいます。恐れや絶望がゆたかな命と希望に置き換えられます。私たちがお願いしたわけではありません。私たちは誤解にまみれ、不信仰に喘ぐものですが、イエス様はその私たちのために私たちのすべての罪を身に負って裁かれてくださり、すべての罪を赦して平安を与えてくださり、その上で新しい命、永遠に続く命を与えてくださいました。私たちは天の故郷に帰る日まで、今週も世にあって、教会で、社会で、そして家族の中で自分に与えられた役割や使命に誠実の限りを尽くして果たしていくことで、共に生きる人々とともに幸せをつくっていきます。イエス様はあなたがそのようにして命を得、また命を豊かに得るために、ご自分の命を与えてくださいました。またよみがえってくださいました。イエス様はあなたを大切に思っておられます。イエス様をメシア、救い主、キリストと告白する教会として、共に成長していきましょう。

イエスは言われた。「わたしは復活であり、命である。わたしを信じる者は、死んでも生きる。」
ヨハネによる福音書 11 章 25 節

人知をはるかに超えた神様の平安が、あなたの心と意思をキリスト・イエスにあって守ってください。アーメン

讃美歌 521 番 献金 献金感謝の祈り

- 1 イエスよ、心に宿りて 我を宮となしたまえ 汚れに染みし この身を 雪より白くしたまえ
※我が罪を洗いて 雪より白くしたまえ
- 2 イエスよ、御腕を伸ばして すべての仇(あだ)を追いやり
我を全(また)き 牲(にえ)となし 大前に献げしめよ ※
- 3 イエスよ、十字架の御許に 我は伏して請い願う
流れ出ずる血潮にて 罪の身を清めたまえ ※
- 4 イエスよ、君の(いさお)にて 清めらるるぞ 嬉しき
我を 新たに 造りて 君のものとなしたまえ ※

アーメン

主の祈り

天にましますわれらの父よ、願わくはみ名をあがめさせたまえ。みくにを来たせたまえ。
みこころの天になるごとく地にもなせたまえ。われらの日用の糧を今日も与えたまえ。
われらに罪をおかす者をわれらが赦すごとく、われらの罪をもゆるしたまえ。
われらを試みにあわせず、悪より救い出したまえ。
国と力と栄えとは、限りなくなんじのものなればなり。アーメン。

頌栄：讃美歌 543 番

主イエスの恵みよ、父の愛よ、御霊の力よ ああみ栄えよ アーメン

祝福の言葉

仰ぎこいねがわくは、私たちの主、イエス・キリストの恵み、父なる神の愛、聖霊の親しき
お交わりが、御前に集う一同とともに、今日も、この一週間も、いく久しくとこしえまでも、
豊かにありますように。アーメン

後奏